

発行所
伊那市荒井
3500-1-401
上伊那教育会館内
長野県教職員組合
上伊那支部
編集発行人
小岩 泰輔

上伊那支部 情報紙

令和5年
8月28日
第7号
職場掲示

支部ホームページ

上伊那支部

検索



平和への願いをつなぐ

○7月7日(金)、8日(土)「網の目平和行進」

○7月27日(木)、28日(金)「被爆78周年2023上伊那非核平和行進」



戦争や原爆に反対する熱い意志をもった多くの仲間が、反核・反戦を願い、上伊那を縦断して行進を行いました。2つの平和行進では、県教組上伊那支部だけではなく、各団体や組合の方々が参加し、中川村から辰野町まで平和の旗を届けました。上伊那支部では各団体と協力し、執行部・女性部・青年部で力を合わせて行進を行いました。

「第40回 反核・反戦平和のつどい」の開催



8月6日(日)に上伊那教育会館において、「反核・反戦平和のつどい」を行いました。講師として、登戸研究所調査研究会共同代表の小木曾伸一先生をお招きし、「伊那谷の本土決戦体制～陸軍登戸研究所の伊那谷疎開～」と題して、上伊那地区における戦争に関わる講演をしていただきました。

登戸研究所は太平洋戦争時には、神奈川県川崎市に研究所を置き、スパイ活動や生物化学兵器や偽札、風船爆弾といった秘密戦のための兵器開発を行う機関でした。終戦間際の昭和20年に、都市部の空襲や本土決戦に備え、長野県

の松代大本營の準備と同時期に地方疎開として研究所の大部分が伊那谷の特に上伊那の地に疎開し、兵器の研究、開発が行われてきました。

この史実について、研究所の移転は知られていましたが、旧陸軍の秘密研究所のため、詳しい活動の実態や研究所の様子については資料も残らず、関係者からの聞き取りも進んでいませんでした。しかし、登戸研究所調査研究会の調査活動を期に文書や当時の研究所の活動を知る資料が発見されました。講演ではそれらの資料や調査の結果について、実際に勤労働員として研究所での爆弾製造に関わった証言なども交えて、登戸研究所の実態について話していただきました。

戦争の歴史を繰り返してはならない。

その思いを込めて、青年部の金子明日海先生に平和のメッセージを朗読していただきました。また、退職教職員の会会長 小山治男先生のギター演奏に合わせて、歌「ねがい」の斉唱を行いました。平和への思いを改めて強くもつ時間になりました。



【参加者の声から】

- ・自分たちが住む上伊那にも戦争があったということ、身近に戦争に関わった人がいたことを知ることは、子どもたちに平和を伝えていくうえで不可欠なことだと感じた。
- ・上伊那の地に飛行場や研究所があり、身近な地域が戦場であり、他人事ではないと思った。この戦争のことや恐ろしさを後世にどう伝えていくのか大切だと思う。教科書や戦争教材など、これらの事実を知る機会が大切と思います。
- ・歴史に埋もれた資料を掘り起こし、真実を明らかにしていく営みに頭が下がります。どこかローカルな話題と思っていた節が自分の中にあります。でも、今戦争につながるようなどんな小さな兆しも見逃してはならないんだろうと思いました。
- ・戦後78年、徐々に戦争の記憶が薄れていき、どこか他人事のようになってきてしまっている気がします。その当時を知る人が少なくなっているからこそ、今一度、一人ひとりが戦争について考え、同じ過ちを繰り返さないことが大切だと改めて感じました。

先生方の熱い想いのために いなっセミナーⅡ(教員採用二次試験対策講座)



8月6日(土)に上伊那教育会館において「いなっセミナーⅡ」が開催されました。27名もの参加者が集まり、二次試験に向けて学ぶ会となりました。講座では、個人面接と模擬授業についての練習や指導が行われ、参加された講師の先生方が真剣に試験対策に臨みました。参加した先生からは「グループの他の方の授業や面接が見られてとても参考になった。」「模擬授業・場面指導に対してその場ですぐに助言があり、良い所、改善できる所も具体的に教えていただいた事がとてもよかった。」という感想が聞かれ、二次試験本番前に有意義な時間になったようです。